

株式会社 **大気社**

この写真は大気社の海外拠点があるアメリカの世界遺産、  
フランク・ロイド・ライトの20世紀建築作品群の一つ、落水荘  
(カウフマン邸) です。

2022年3月期(2021年度)

**第2四半期決算説明会資料**

2021年11月16日

Copyright 2021 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

1. 上期の市場環境と業績
2. 通期業績予想

社長の加藤でございます。

本日は、弊社の決算説明会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前回に引き続き、今回もリモートでの決算説明とさせていただきます。

私からは、上期の市場環境と業績、そして2022年3月期業績の見通しについてご説明させていただきます。

# 1. 上期の市場環境と業績

## 1 上期の市場環境と業績

### 上期の市場環境

#### **国内市場**

首都圏におけるオフィスビルの建設需要が好調であり、医薬品メーカーや電子部品メーカーなどによる投資も堅調に推移した。

#### **海外市場**

新型コロナウイルス感染症の影響による不透明感が依然続いており、各メーカーによる設備投資は慎重な動きが続いた。

**まず、当社グループにおける市場環境につきましては、国内市場では首都圏におけるオフィスビルの建設需要が好調であり、医薬品メーカーや電子部品メーカーなどによる投資も堅調に推移しました。**

**海外市場では新型コロナウイルス感染症の影響による不透明感が依然続いており、各メーカーによる設備投資は慎重な動きが続きました。**

# 1 上期の市場環境と業績

## 上期の連結業績

単位：億円

	予想	2021.9 実績	差異
受注工事高	940	879	-60
完成工事高	920	924	4
経常利益	27	35	8
(同率)	2.9%	3.9%	0.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	17	16	-0
(同率)	1.8%	1.8%	-0.0%

- 受注工事高は、環境システム・塗装システム両事業の海外において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による設備投資の調整局面が続いたことで、全社で期初予想を下回った。
- 経常利益は、塗装システム事業での損失分を環境システム事業が補う形で、期初予想を上回った。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、海外子会社の採算性悪化や法人税等の負担が増加したため、期初予想をわずかに下回った。

**このような状況のもと、上期の業績につきましては、受注工事高は、環境システム、塗装システム両事業の海外において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による設備投資の調整局面が依然として続いたことで、全社では期初予想を下回りました。**

**経常利益は、塗装システム事業での損失分を環境システム事業が補う形で、期初予想に対し8億円上回る結果となりました。**

**親会社株主に帰属する四半期純利益は、海外子会社の採算性悪化や法人税等の負担が増加したため、期初予想をわずかに下回りました。採算悪化の内容につきましては後ほど、管理本部長の中島よりご説明いたします。**

## 2. 通期業績予想

**続いて、通期の業績予想についてご説明いたします。**

## 2 通期業績予想

### 通期の連結業績予想

単位：億円

	上期実績	下期予想	通期 (新予想)	通期 (期初予想)	差異
受注工事高	879	1,420	2,300	2,440	-140
完成工事高	924	1,125	2,050	2,180	-130
経常利益	35	64	100	135	-34
(同率)	3.9%	5.7%	4.9%	6.2%	-1.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	16	43	60	84	-24
(同率)	1.8%	3.8%	2.9%	3.9%	-0.9%

- 上期業績および最近の事業環境を踏まえ、通期業績予想を修正。
- 全ての項目で期初予想を下回る見通し。
- 海外での新型コロナウイルス感染症拡大の影響と、海外子会社の採算悪化が主要因。

**今回、上期業績および最近の事業環境等を踏まえ、通期業績予想を修正させていただきました。**

**全ての項目で期初予想を下回る見通しです。**

**理由につきましては、海外での新型コロナウイルス感染症拡大の影響と、海外子会社の採算性悪化が主要因となっております。分野ごとの要因につきましては、後ほど、ご説明いたします。**



## 1. 2022年3月期（2021年度） 第2四半期決算説明

- ① 2022年3月期第2四半期決算ハイライト
- ② 環境システム事業の業績
- ③ 塗装システム事業の業績
- ④ 主な受注工事・完成工事・繰越工事
- ⑤ 2022年3月期の業績予想

## 2. 中期経営計画（2019年度～21年度）の各戦略における取り組み

## 3. 株主還元

1. 業績数値等は原則、連結ベースです。個別ベースの場合のみ、各ページのタイトルに（個別）と記載しています。
2. 業績数値等は原則、外部顧客に対する取引金額となっており、セグメント別の営業利益・経常利益についてのみ、内部取引高を含む数値となっております。業績予想数値は、発表日現在において、入手可能な情報に基づき推計した見込みです。
3. 経済動向、業界における激しい競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度の改正、その他多様なリスクや不確実性を含んでいます。そのため、実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

# 1. 2022年3月期（2021年度） 第2四半期決算説明

**管理本部長の中島です。**

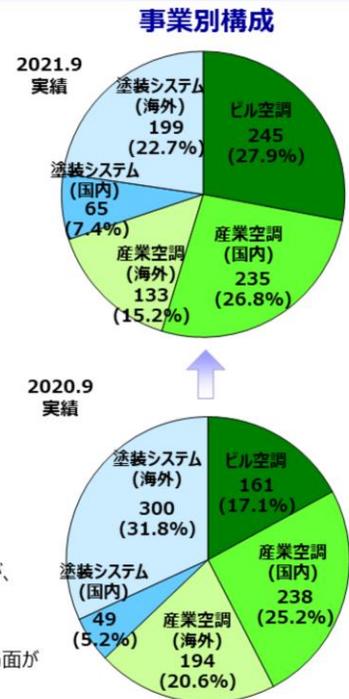
**当頁からは、2022年3月期上期決算についてご説明いたします。**

**1**
**2022年3月期第2四半期決算ハイライト**
**1-①.事業別受注工事高（前年同期比）**

単位：億円

	2020.9	2021.9	増減
<b>受注工事高</b>	<b>945</b>	<b>879</b>	<b>-65</b>
（うち国内）	（449）	（546）	（96）
（うち海外）	（495）	（333）	（-162）
環境システム事業	594	614	19
ビル空調	161	245	83
産業空調	433	368	-64
（うち国内）	（238）	（235）	（-3）
（うち海外）	（194）	（133）	（-61）
塗装システム事業	350	264	-85
（うち国内）	（49）	（65）	（15）
（うち海外）	（300）	（199）	（-101）

- ・ビル空調分野は、前年同期は新型コロナウイルス感染症拡大による投資減少の影響が大きく出たが、今期は首都圏での大規模再開発案件などにより増加。
- ・産業空調分野および塗装システム事業は、海外で前年同期に大型案件の受注があったことによる反動減に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による景気悪化に伴い、設備投資の調整局面が続き、いずれも減少。



当頁は、事業別の受注工事高を前年同期比でまとめています。  
 まず、全社においては、65億円減少し、879億円となりました。

ビル空調分野は、前年同期において新型コロナウイルス感染症拡大による投資減少の影響が大きく出ましたが、今期は首都圏での大規模再開発案件などにより増加しました。

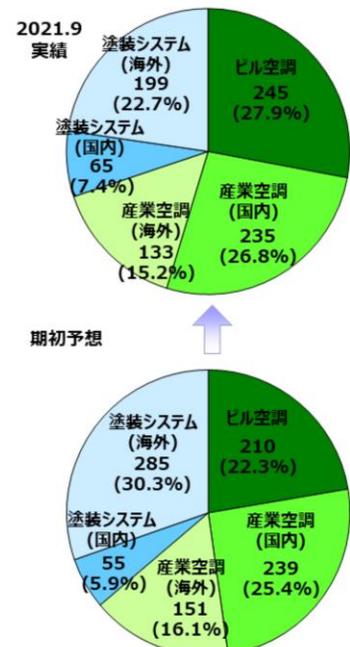
産業空調分野および塗装システム事業は、それぞれ海外で前年同期に大型案件の受注があったことによる反動減に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による景気悪化に伴い、設備投資の調整局面が依然として続き、いずれも減少しました。

**1**
**2022年3月期第2四半期決算ハイライト**
**1-②. 事業別受注工事高（予想比）**

単位：億円

	予想	2021.9 実績	差異
<b>受注工事高</b>	<b>940</b>	<b>879</b>	<b>-60</b>
（うち国内）	（504）	（546）	（42）
（うち海外）	（436）	（333）	（-102）
<b>環境システム事業</b>	<b>600</b>	<b>614</b>	<b>14</b>
ビル空調	210	245	35
産業空調	390	368	-21
（うち国内）	（239）	（235）	（-3）
（うち海外）	（151）	（133）	（-17）
<b>塗装システム事業</b>	<b>340</b>	<b>264</b>	<b>-75</b>
（うち国内）	（55）	（65）	（10）
（うち海外）	（285）	（199）	（-85）

- ・ビル空調分野は、首都圏を中心とした大規模再開発案件の需要を確実に取り込み、予想を上回った。
- ・産業空調分野および塗装システム事業は、海外において、期初には新型コロナウイルスの収束も見込み、期ズレの案件等の取り込みを一定程度織り込んだが、感染症拡大の影響が想定以上に長引き、設備投資の調整局面が続いた。

**事業別構成**


**当頁は、同じく受注工事高について、期初予想比で示しております。**

**まず、全社では、期初予想を60億円下回りました。**

**ビル空調分野は、首都圏を中心とした大規模再開発案件の需要を確実に取り込めたことなどにより、予想を上回りました。**

**産業空調分野および塗装システム事業は、海外において、期初には新型コロナウイルスの今期中の収束も見込み、期ズレの案件等の取り込みを一定程度織り込んでおりましたが、感染症拡大の影響が想定以上に長引き、設備投資の調整局面が続きました。**

**1**
**2022年3月期第2四半期決算ハイライト**
**2-①. 事業別完成工事高（前年同期比）**

単位：億円

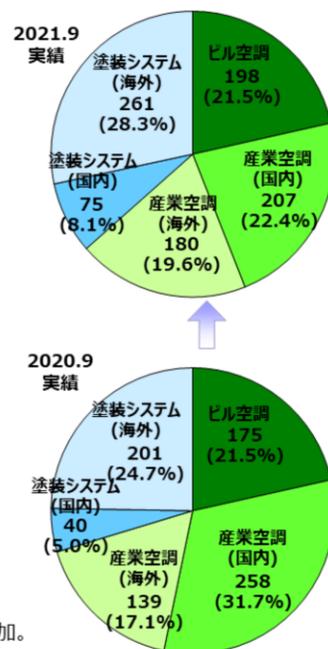
	2020.9	2021.9	増減
<b>完成工事高</b>	815	924	108
（うち国内）	(474)	(481)	(6)
（うち海外）	(341)	(442)	(101)
<b>環境システム事業</b>	573	587	13
ビル空調	175	198	23
産業空調	397	388	-9
（うち国内）	(258)	(207)	(-51)
（うち海外）	(139)	(180)	(41)
<b>塗装システム事業</b>	242	337	94
（うち国内）	(40)	(75)	(34)
（うち海外）	(201)	(261)	(59)

（環境システム事業）

- ・ビル空調分野は、期初の繰越工事高の増加により前期比で増加。
- ・産業空調分野は、海外で増加したものの、国内は減少。  
（国内において、前年同期は複数の大型案件の大きな進捗があったことによる反動減）

（塗装システム事業）

- ・前期に比べ期初の繰越工事高が減少したものの、完工を迎えるタイミングの影響により、前期比で増加。

**事業別構成**


**当頁は、事業別完成工事高を前年同期比で示しております。  
まず、全社では108億円増加し、924億円となりました。**

そのうち、環境システム事業に関しては、ビル空調分野は、期初の繰越工事高の増加により前期比で増加しました。産業空調分野は、海外で増加したものの、国内で前年同期に複数の大型案件が大きく進捗したため、その反動減により、前期比で減少しました。

塗装システム事業は、前期に比べ期初の繰越工事高が減少しておりますが、完工を迎えるタイミングの影響により、前期比で増加しました。

**1**
**2022年3月期第2四半期決算ハイライト**
**2-②.事業別完成工事高（予想比）**

単位：億円

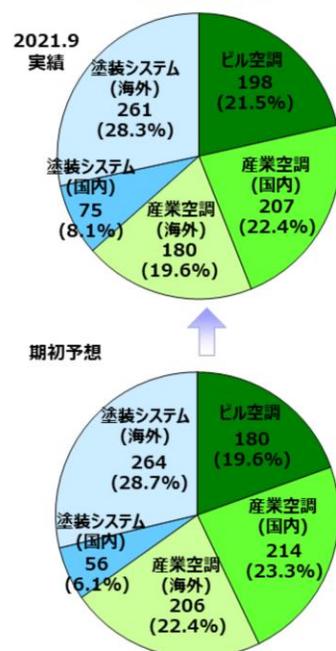
	予想	2021.9 実績	差異
<b>完成工事高</b>	<b>920</b>	<b>924</b>	<b>4</b>
（うち国内）	（450）	（481）	（31）
（うち海外）	（470）	（442）	（-27）
<b>環境システム事業</b>	<b>600</b>	<b>587</b>	<b>-12</b>
ビル空調	180	198	18
産業空調	420	388	-31
（うち国内）	（214）	（207）	（-6）
（うち海外）	（206）	（180）	（-25）
<b>塗装システム事業</b>	<b>320</b>	<b>337</b>	<b>17</b>
（うち国内）	（56）	（75）	（19）
（うち海外）	（264）	（261）	（-2）

（環境システム事業）

- ・ビル空調分野は、首都圏の再開発案件の出来高が伸びたことで、予想を上回った。
- ・産業空調分野は、海外で新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大型物件の工期遅れが発生し予想を下回った。

（塗装システム事業）

- ・国内で期初想定を上回る工事の進捗があり、予想を上回った。

**事業別構成**


**当頁は、同じく完成工事高を予想比でまとめています。**

**まず、全社では期初予想を4億円上回りました。**

**そのうち、環境システム事業に関しては、ビル空調分野は、首都圏の再開発案件の出来高が伸びたことにより、予想を上回りました。産業空調分野は、海外で新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大型物件の工期遅れが発生し、予想を下回りました。**

**塗装システム事業は国内で期初想定を上回る工事の進捗があり、予想を上回りました。**

**3-①. 事業別利益（前年同期比）**

単位：億円

	2020.9	2021.9	増減
<b>営業利益</b>	31	27	-4
(同率)	3.9%	3.0%	-0.9%
環境システム事業	42	30	-11
(同率)	7.4%	5.3%	-2.1%
塗装システム事業	-10	-5	5
(同率)	-4.5%	-1.6%	2.9%
<b>経常利益</b>	37	35	-1
(同率)	4.6%	3.9%	-0.7%
環境システム事業	44	33	-11
(同率)	7.8%	5.7%	-2.1%
塗装システム事業	-10	-4	6
(同率)	-4.4%	-1.2%	3.1%

(環境システム事業)

・前期に比べ、採算性の高い物件の比率が低下したこと、インドのNicomac社（昨年取得）ののれん償却費等の販管費増により、減益。

(塗装システム事業)

（・前年同期は競争激化に伴い、採算性の高い物件の比率が低下したことにより、経常赤字であった。）

・前期と比べ、今期は完成工事高が増加したことで赤字幅は減少しているが、Geico社の欧州におけるプロジェクトにおいて、採算が悪化したことにより経常赤字となった。

**当頁は、事業別利益を前年同期比でまとめています。**

**まず、経常利益は全社ベースでは1億円減少し、35億円となりました。**

**そのうち、環境システム事業においては、前期に比べて、採算性の高い物件の比率が低下したことと、昨年取得したインドのNicomac社ののれん償却費等の販管費増により、減益となりました。**

**塗装システム事業は、前年同期は競争激化に伴い、採算性の高い物件の比率が低下したことにより、経常赤字となりました。前期と比べて今期は完成工事高が増加したことで赤字幅は減少しておりますが、Geico社の欧州におけるプロジェクトにおいて、採算が悪化したことにより経常赤字となりました。**

**3-②. 事業別利益（予想比）**

単位：億円

	予想	2021.9 実績	差異
<b>営業利益</b>	23	27	4
(同率)	2.5%	3.0%	0.5%
環境システム事業	24	30	6
(同率)	4.0%	5.3%	1.3%
塗装システム事業	1	-5	-6
(同率)	0.3%	-1.6%	-1.9%
<b>経常利益</b>	27	35	8
(同率)	2.9%	3.9%	0.9%
環境システム事業	25	33	8
(同率)	4.2%	5.7%	1.6%
塗装システム事業	1	-4	-5
(同率)	0.3%	-1.2%	-1.5%

(環境システム事業)

・期初繰越物件のうち上期竣工物件において、期初想定した以上の利益改善が進み、予想を上回った。

(塗装システム事業)

・国内で期初想定以上の出来高を確保し、想定以上の利益を確保できたものの、Geico社の欧州におけるプロジェクトにおいて採算が悪化し、その損失分を補うことができず、結果として経常赤字となった。

当頁は、同じく利益について予想比でまとめています。

経常利益については、全社では期初予想を8億円上回りました。

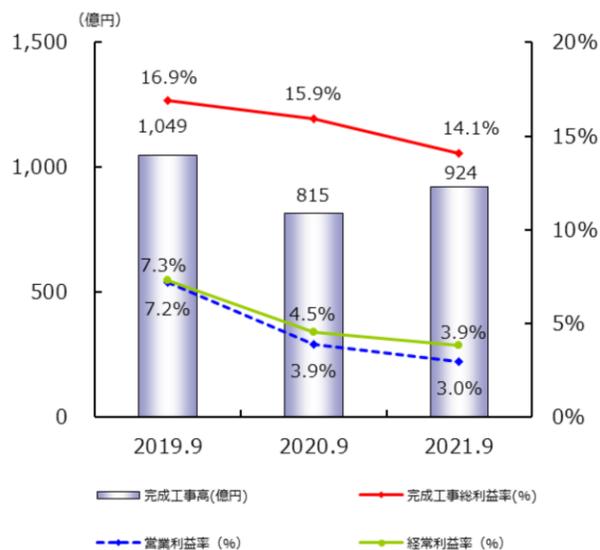
そのうち、環境システム事業においては、期初繰越物件のうち上期竣工物件において、期初想定した以上の利益改善が進み、予想を上回りました。

塗装システム事業は、国内で期初想定以上の出来高を確保し、想定以上の利益を確保できたものの、先ほどお伝えしたとおり、Geico社の欧州におけるプロジェクトにおいて採算が悪化し、その損失分を補うことができず、結果として経常赤字となりました。

**4. 損益計算書**

単位：億円

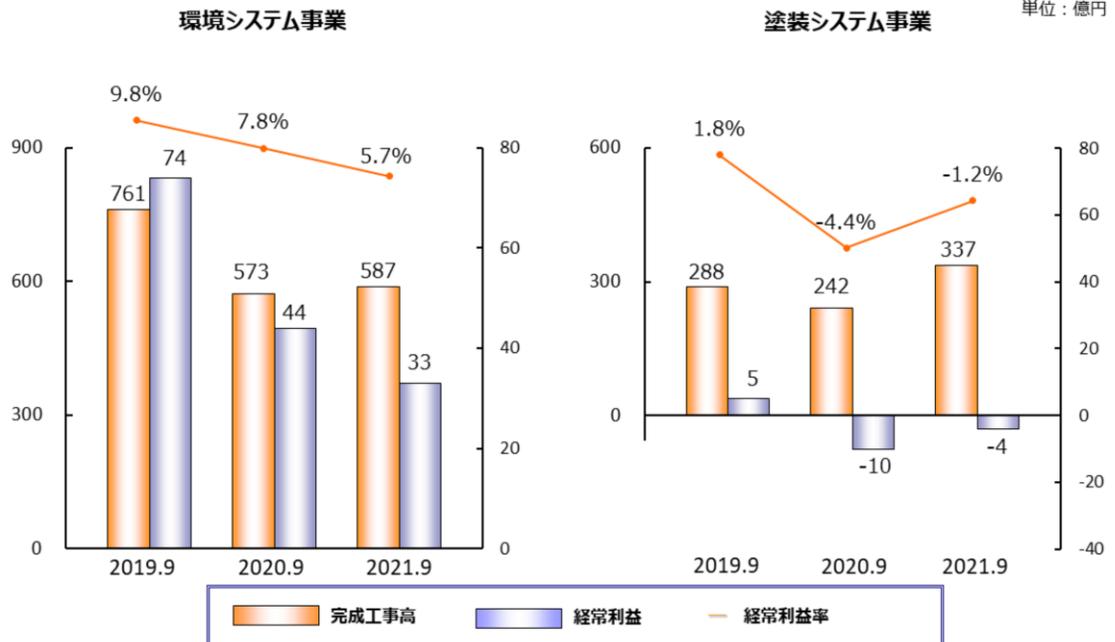
	2019.9	2020.9	2021.9
完成工事高	1,049	815	924
完成工事総利益	177	129	130
(同率)	16.9%	15.9%	14.1%
販管費	102	97	102
(同率)	9.7%	12.0%	11.1%
営業利益	75	31	27
(同率)	7.2%	3.9%	3.0%
経常利益	76	37	35
(同率)	7.3%	4.5%	3.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	53	30	16
(同率)	5.1%	3.8%	1.8%



当頁は、3ヶ年の業績の推移を表しています。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、主にGeico社の採算性悪化や法人税等の負担が増加したため、前期より13億円減少し、16億円となりました。

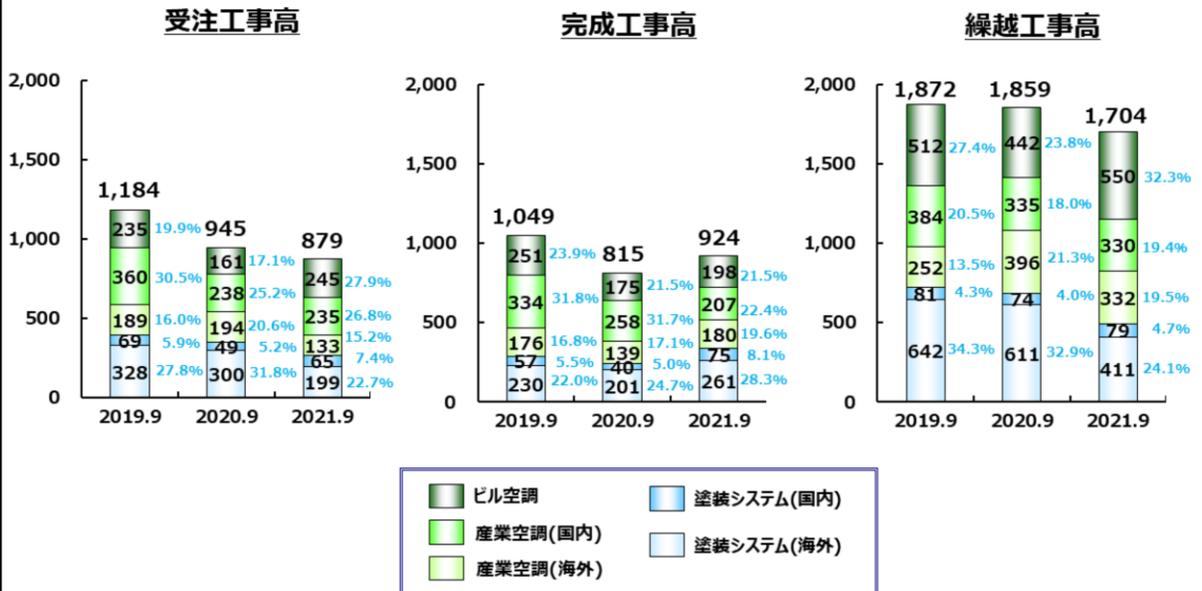
5. 報告セグメントごとの完成工事高及び経常利益



当頁は、先ほどご説明しました事業ごとの完成工事高、経常利益額の推移をグラフで示しています。ご参照ください。

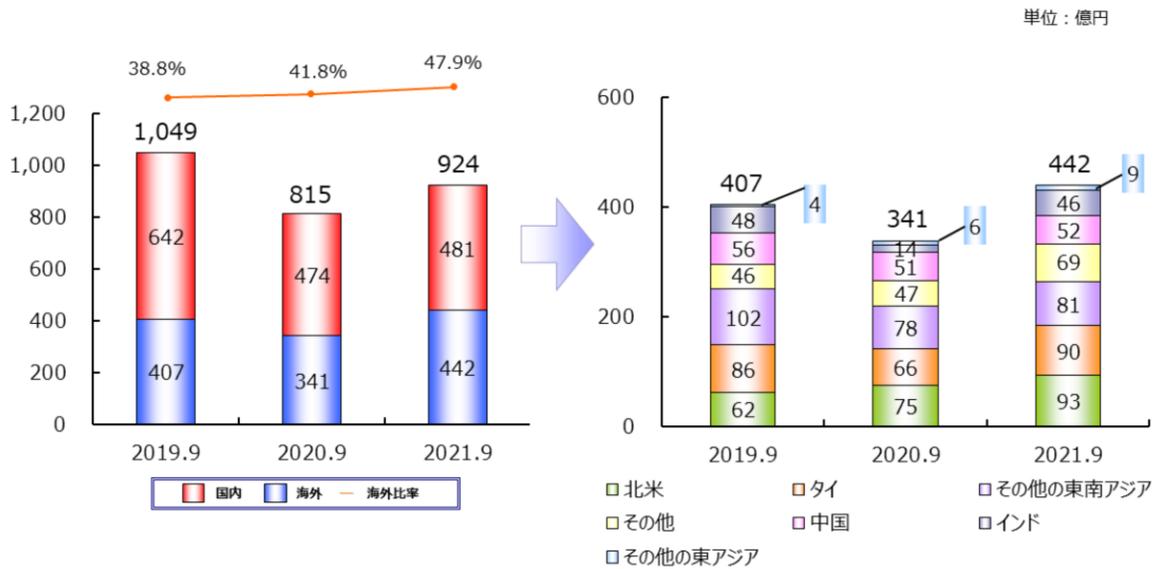
6. 受注工事高 / 完成工事高 / 繰越工事高

単位：億円



当頁は、受注工事高・完成工事高・繰越工事高の事業分野ごとの内訳と推移を示しております。

7. 海外完成工事高の推移(施工地別)



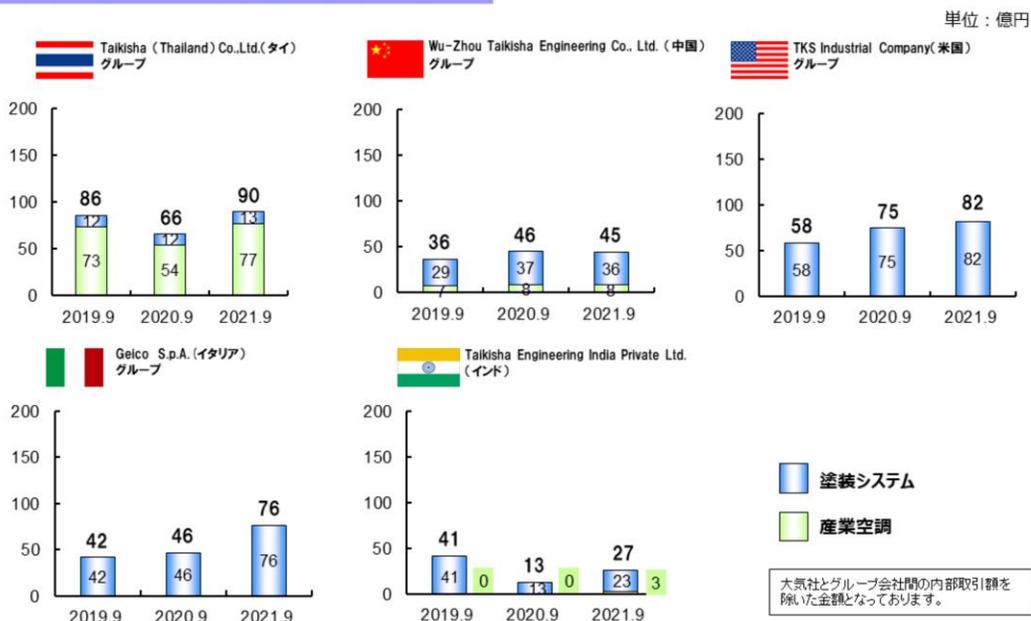
備考：当セグメントデータは、外部顧客への売上高のみの数値です。  
 ●主な国または地域 ・東南アジア = シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、他  
 ・東アジア = 台湾、韓国 ・北米 = アメリカ、カナダ、メキシコ ・その他地域 = 欧州、南米、他

当頁は、海外の完成工事高の推移についてです。

左のグラフは国内海外の内訳と海外比率の推移を示しています。

今期の完成工事高は、前年同期に対し国内・海外ともに増加しましたが、海外の増加がより大きかったため、オレンジ色の折れ線で示す海外比率は、前期の41.8%より6.1ポイント上昇し、47.9%となりました。

8. 海外主要5社の完成工事高の推移



当頁は、海外主要5社の完成工事高の推移を示しております。

タイと北米の子会社およびイタリアのGeico社では、大型物件の進捗が順調に推移し、完成工事高が増加しました。

**9. 貸借対照表**

単位：億円

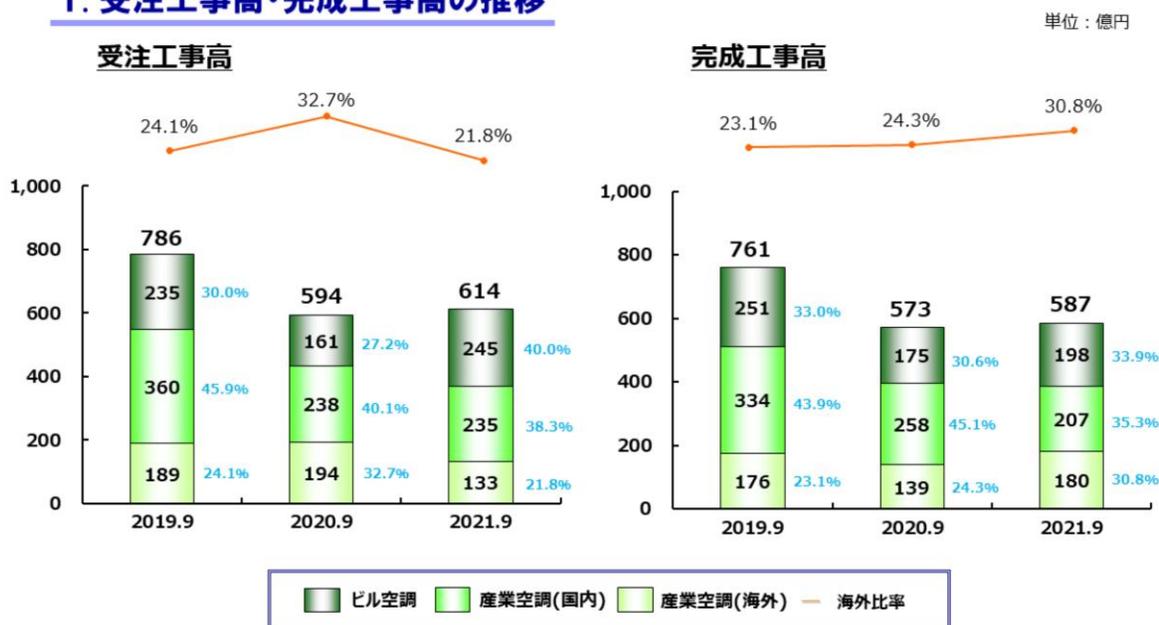
科目	2021.3	2021.9	増減
流動資産	1,653	1,581	-72
現金預金	520	465	-54
受取手形・完成工事未収入金	1,014	919	-94
有価証券	20	20	0
未成工事支出金及び 材料貯蔵品	24	24	-0
その他	80	158	77
貸倒引当金	-6	-6	0
固定資産	634	639	4
有形固定資産	101	107	6
のれん	40	39	-1
その他無形固定資産	43	41	-2
投資有価証券	326	328	2
繰延税金資産	10	3	-6
その他	112	118	6
貸倒引当金	-0	-0	-0
資産合計	2,288	2,220	-67

科目	2021.3	2021.9	増減
流動負債	869	766	-103
支払手形・工事未払金等	520	405	-115
未成工事受入金	142	112	-29
工事損失引当金	4	3	-0
その他	202	245	43
固定負債	156	180	24
負債合計	1,025	946	-79
純資産	1,263	1,274	11
資本金	64	64	0
資本剰余金	50	50	0
利益剰余金	957	953	-3
自己株式	-25	-25	0
その他有価証券評価差額金	142	144	1
繰延ヘッジ損益	-0	-0	-0
為替換算調整勘定	-2	8	10
退職給付に係る調整累計額	24	25	1
非支配株主持分	52	53	1
負債純資産合計	2,288	2,220	-67

当頁は、連結の貸借対照表となります。ご参照ください。

## 2 環境システム事業の業績

### 1. 受注工事高・完成工事高の推移



当頁からは、環境システム事業の業績についてご説明いたします。

左のグラフは受注工事高、右のグラフは完成工事高について事業分野別に推移を示しております。

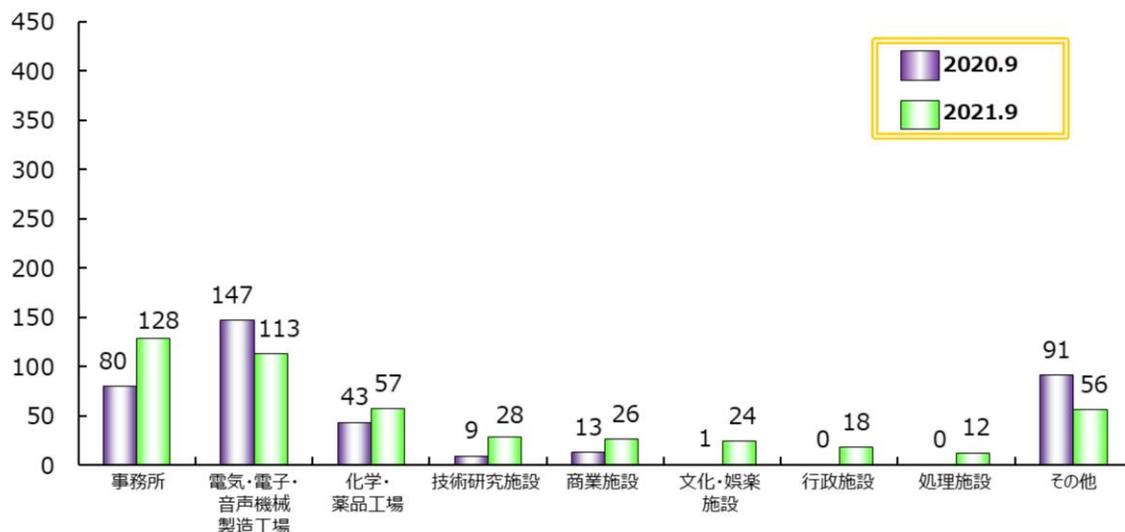
受注工事高は、国内で増加し、海外で減少したことにより、海外比率は低下しました。

完成工事高は、海外で増加し、国内で減少したことにより、海外比率は上昇しました。

2 環境システム事業の業績

2. 市場種別受注状況(個別)

単位：億円



当頁は、「個別」の市場種別受注状況となります。

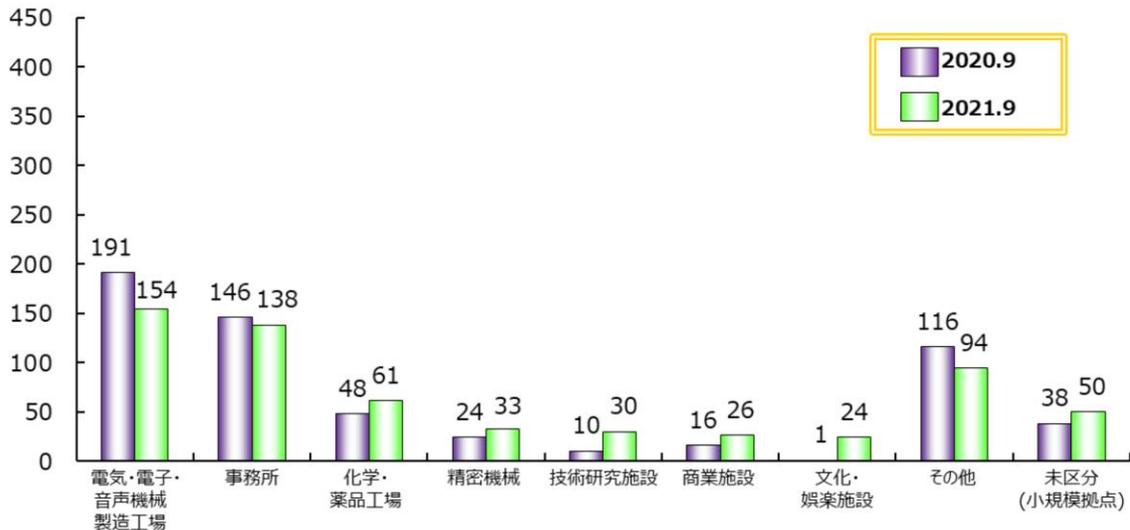
電気・電子分野の受注は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による景気悪化に伴い、投資計画が先送りとなったことなどにより、大幅減少となりました。

事務所分野の受注は、首都圏を中心した大規模再開発やリニューアル需要を確実に取り込めたことなどにより、大幅に増加しました。

## 2 環境システム事業の業績

### 3. 市場種別受注状況(連結)

単位：億円



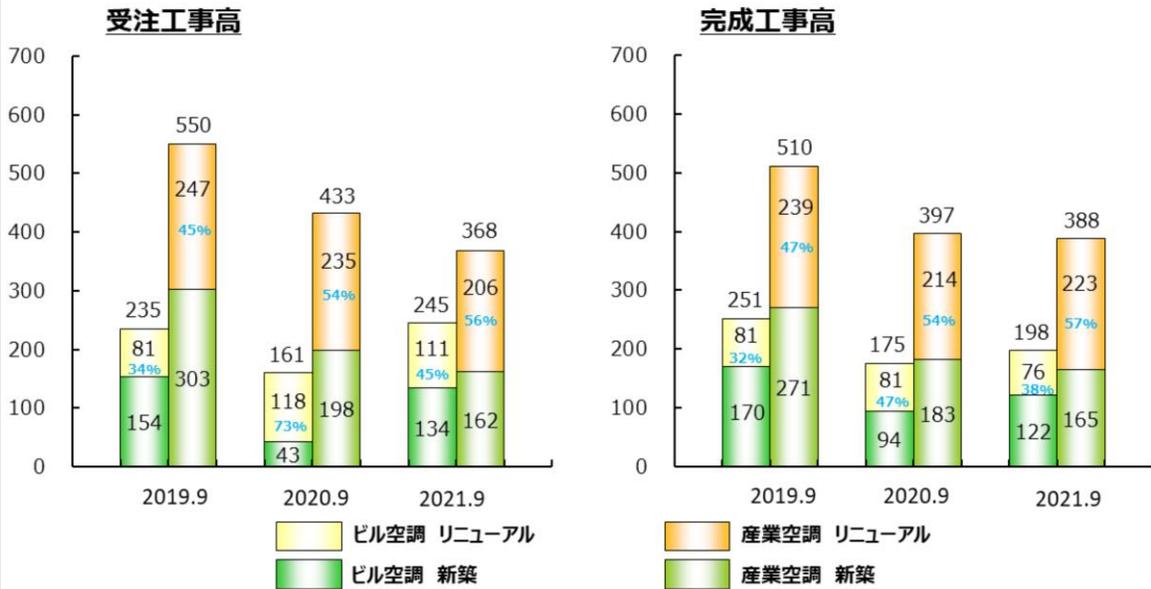
当頁は、環境システム事業の「連結」の市場種別受注状況となります。

電気・電子分野の受注は、海外においても景気悪化により設備投資は調整局面が続いたため減少しました。

## 2 環境システム事業の業績

### 4. リニューアル工事の推移(連結)

単位：億円  
%：リニューアル比率



当頁は、リニューアル工事の推移です。

産業空調分野におけるリニューアル工事の受注工事高は、今期は電気・電子部品メーカーの投資計画の先送りにより減少しました。

### 3 塗装システム事業の業績

#### 1. 受注工事高・完成工事高の推移



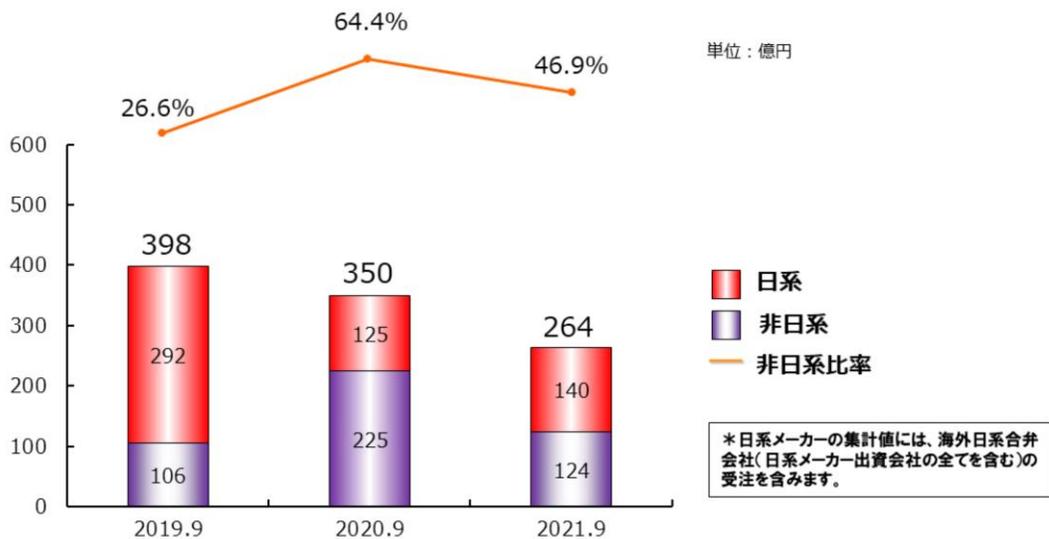
当頁からは、塗装システム事業についての説明となります。

受注工事高の海外比率は、前期比で国内が増加し、海外が大きく減少したため、低下しました。

完成工事高については、前期比で国内、海外とも増加しましたが、国内の増加幅が大きく、海外比率は低下しました。

### 3 塗装システム事業の業績

#### 2. 非日系メーカー受注工事高比率



当頁は、非日系自動車メーカーからの受注工事高比率についてです。

前期に欧州・北米において非日系顧客からの大型案件の受注があったことにより、今期は非日系比率は大幅に減少しました。

## 4 主な受注工事・完成工事・繰越工事

### 1. 5億円以上の受注工事 全25件 (324億円)

5億円以上の件数 (工事・市場種別)				
<b>受注工事高</b>  合計25件 (324億円)	国内 201億円	16件	事務所	4件
			商業施設	2件
			文化・娯楽施設	1件
			行政施設	1件
			処理施設	1件
			技術研究施設	2件
			化学・薬品	2件
			精密機械・医療器具	1件
			自動車	2件
	海外 123億円	9件	精密機械・医療器具	2件
			電気・電子	1件
			自動車	6件

当頁からは、計上金額が5億円以上となった受注・売上案件と、10億円以上の繰越案件についてまとめております。ご参照ください。

**4**
**主な受注工事・完成工事・繰越工事**
**2. 5億円以上の完成工事 全30件 (330億円)**

5億円以上の件数 (工事・市場種別)				
<b>完成工事高</b>  合計30件  (330億円)	国内 153億円	15件	事務所	6件
			宿泊施設	1件
			商業施設	1件
			医療・福祉施設	1件
			電気・電子	2件
			化学・薬品	2件
			技術研究施設	1件
			自動車部品	1件
	海外 177億円	15件	事務所	1件
			駅・空港施設	1件
			電気・電子	3件
			その他工場	1件
			自動車	7件
			二輪車	1件
			トラック	1件

## 4 主な受注工事・完成工事・繰越工事

### 3. 10億円以上の繰越工事 全36件 (797億円)

10億円以上の件数 (工事・市場種別)			繰越工事	内 2021年度 完成予定	
<b>繰越工事高</b>  合計36件  (797億円)	国内 470億円	23件	事務所	12件	
			行政施設	2件	
			文化・娯楽施設	1件	
			駅・空港施設	1件	
			技術研究施設	3件	
			化学・薬品	2件	
			食品・水産工場	1件	
			その他	1件	
	海外 327億円	13件	事務所	2件	
			電気・電子	1件	
			自動車	8件	1件
			トラック	1件	
			鉄道	1件	

### 事業別予想値

単位：億円

	上期実績	下期予想	通期 新予想	通期 期初予想	差異
<b>受注工事高</b>	879	1,420	2,300	2,440	-140
(うち国内)	(546)	(928)	(1,475)	(1,318)	(157)
(うち海外)	(333)	(491)	(825)	(1,122)	(-297)
<b>環境システム事業</b>	614	955	1,570	1,710	-140
ビル空調	245	214	460	444	16
産業空調	368	741	1,110	1,266	-156
(うち国内)	(235)	(552)	(788)	(740)	(48)
(うち海外)	(133)	(188)	(322)	(526)	(-204)
<b>塗装システム事業</b>	264	465	730	730	0
(うち国内)	(65)	(161)	(227)	(134)	(93)
(うち海外)	(199)	(303)	(503)	(596)	(-93)

#### (環境システム事業)

- ・ビル空調分野は、上期に期初想定以上の受注を確保できたこともあり、通期としては期初予想を上回る見込み。
- ・産業空調分野は、国内では半導体関連のメーカーや製薬メーカーの投資意欲の高まりが期初想定以上になると見込まれ、期初予想を上回る見通したが、海外での新型コロナウイルス感染症拡大の影響による設備投資計画の延期・縮小に伴い、期初予想を下回る見通し。

#### (塗装システム事業)

- ・海外の減少を国内がカバーし、期初予想通りとなる見込み。

31ページからは、2022年3月期の通期業績予想についてご説明いたします。今回、上期業績および最近の業績動向等を踏まえ、通期業績予想について修正させていただきました。

まず、受注工事高についてご説明いたしますと、全社では期初予想を140億円下回る見通しです。

そのうち、環境システム事業は予想を140億円下回る見込みです。

ビル空調分野につきましては、上期に期初想定以上の受注を確保できたこともあり、通期としては期初予想を16億円上回る、460億円と見込んでいます。

産業空調分野につきましては、国内では半導体関連のメーカーや製薬メーカーの投資意欲の高まりが期初想定以上になると見込まれ、期初予想を上回る見通しではありますが、海外での新型コロナウイルス感染症拡大の影響による設備投資計画の延期・縮小に伴い、期初予想を156億円下回る1,110億円となる見通しとしています。

一方、塗装システム事業は、海外の減少を国内がカバーし、期初予想通り730億円となる見込みです。

### 事業別予想値

単位：億円

	上期実績	下期予想	通期 新予想	通期 期初予想	差異
<b>完成工事高</b>	924	1,125	2,050	2,180	-130
(うち国内)	(481)	(591)	(1,073)	(1,063)	(10)
(うち海外)	(442)	(534)	(977)	(1,117)	(-140)
<b>環境システム事業</b>	587	732	1,320	1,420	-100
ビル空調	198	216	415	373	42
産業空調	388	516	905	1,047	-142
(うち国内)	(207)	(320)	(528)	(561)	(-33)
(うち海外)	(180)	(196)	(377)	(486)	(-109)
<b>塗装システム事業</b>	337	392	730	760	-30
(うち国内)	(75)	(54)	(130)	(129)	(1)
(うち海外)	(261)	(338)	(600)	(631)	(-31)

#### (環境システム事業)

- ・ビル空調分野は、首都圏の大規模再開発案件を中心に当初の想定以上に出来高が上がり、期初予想を上回る見通し。
- ・産業空調分野は、国内で受注工事高は増えるものの、大型物件が多く、当期の完成工事高への寄与が少ないため期初予想を下回る見通し。海外でも、期初には新型コロナウイルス感染症の収束を見込み、当期受注当期完工の案件を織り込んでいたが、感染症の影響は依然残り、期初予想を下回る見込み。

#### (塗装システム事業)

- ・海外において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による受注時期の遅れに伴う完成工事高減少により、期初予想を下回る見込み。

次に完成工事高についてご説明いたします。

全社では期初予想を130億円下回る見通しです。

そのうち、環境システム事業は予想を100億円下回る見込みです。

ビル空調分野は、首都圏の大規模再開発案件を中心に当初の想定以上に出来高が上がり、期初予想を42億円上回る見通しです。

一方産業空調分野では、国内で受注工事高は増えるものの、大型物件が多く、当期の完成工事高への寄与が少ないため期初予想を下回る見通しです。海外でも、期初には新型コロナウイルス感染症の収束を見込み、当期受注当期完工の案件を織り込んでおりましたが、感染症の影響は依然残り、期初予想を142億円下回る見込みです。

塗装システム事業は海外において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による受注時期の遅れに伴う完成工事高減少により、期初予想を30億円下回る見込みです。

### 事業別予想値

単位：億円

	上期実績	下期予想	通期 新予想	通期 期初予想	差異
<b>営業利益</b>	27	62	90	127	-37
(同率)	3.0%	5.5%	4.4%	5.8%	-1.4%
<b>環境システム事業</b>	30	58	89	106	-17
(同率)	5.3%	7.9%	6.7%	7.5%	-0.7%
<b>塗装システム事業</b>	-5	9	4	27	-23
(同率)	-1.6%	2.4%	0.5%	3.6%	-3.0%
<b>経常利益</b>	35	64	100	135	-35
(同率)	3.9%	5.7%	4.9%	6.2%	-1.3%
<b>環境システム事業</b>	33	56	90	108	-18
(同率)	5.7%	7.7%	6.8%	7.6%	-0.8%
<b>塗装システム事業</b>	-4	10	6	27	-21
(同率)	-1.2%	2.6%	0.8%	3.6%	-2.7%
<b>親会社株主に帰属する 当期純利益</b>	16	43	60	84	-24
(同率)	1.8%	3.8%	2.9%	3.9%	-0.9%

#### (環境システム事業)

- ・国内では上期竣工物件において、期初想定した以上の利益改善が進み、上期期初予想を上振れたものの、下期は上期への利益前倒し分に加え、下期の高い目標設定の水準を超える利益改善が進まなかった。
- ・海外では新型コロナウイルス感染症拡大の影響による受注工事高減少に伴う完成工事高不足や工事進捗の遅れ、さらには材料費高騰などの影響を受け、通期では期初予想を下回る見通し。

#### (塗装システム事業)

- ・上期におけるGeico社の採算性悪化の影響に加え、下期はGeico社および、北米、インドの子会社において、前ページに記載の要因による完工高減や、材料費高騰などによる利益率悪化の影響を受け、通期では期初予想を下回る見通し。

次に利益についてご説明いたします。

**経常利益についてご説明しますと、全社では期初予想を35億円下回る見通しです。**

そのうち環境システム事業は、国内では上期竣工物件において、期初想定した以上の利益改善が進み、上期期初予想を上振れたものの、下期は上期への利益前倒し分に加え、下期の高い目標設定の水準を超える利益改善が進まず、海外では新型コロナウイルス感染症拡大の影響による受注工事高減少に伴う完成工事高不足や工事進捗の遅れ、さらには材料費高騰などの影響を受け、通期では期初予想を18億円下回る、90億円となる見通しです。

塗装システム事業は、上期におけるGeico社の採算性悪化の影響に加え、下期は、Geico社および、北米、インドの子会社において、さきほど前ページで述べた要因による完工高減や、材料費高騰などによる利益率悪化の影響を受け、通期では期初予想を21億円下回る、6億円となる見通しです。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、Geico社の採算性悪化を主要因として、期初予想を24億円下回る、60億円となる見通しです。

**事業別予想値**

単位：億円

	2021.3									2022.3								
	環境システム			塗装システム			全社			環境システム			塗装システム			全社		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期(E)	通期(E)	上期	下期(E)	通期(E)	上期	下期(E)	通期(E)
受注工事高	594	760	1,355	350	299	649	945	1,059	2,004	614	955	1,570	264	465	730	879	1,420	2,300
完成工事高	573	767	1,340	242	442	684	815	1,209	2,025	587	732	1,320	337	392	729	924	1,125	2,050
営業利益	42	68	111	-10	20	9	31	84	116	30	58	89	-5	9	4	27	62	90
経常利益	44	67	111	-10	19	9	37	85	122	33	56	90	-4	10	6	35	64	100
親会社株主に帰属する当期純利益	-	-	-	-	-	-	30	52	82	-	-	-	-	-	-	16	43	60

① 2021年3月期上期決算為替レート：1USD=108.44円、1ユーロ=119.85円、1タイバツ=3.44円

② 2022年3月期上期決算為替レート：1USD=107.76円、1ユーロ=129.97円、1タイバツ=3.49円

③ 2022年3月期想定為替レート：1USD=103.00円、1ユーロ=121.00円、1タイバツ=3.30円

 ※2022年3月期業績予想において、全為替レートが1%変動した場合の影響額  
 ⇒受注・完工：約10億円、 経常利益：約0.1億円

①と②の為替差による影響 完成工事高：+14.7億円、経常利益：△0.8億円

②と③の為替差による影響 完成工事高：+25.4億円、経常利益：△0.2億円

当頁は、2022年3月期の事業別予想値となります。

以上、今期業績予想の修正についてご説明させていただきました。

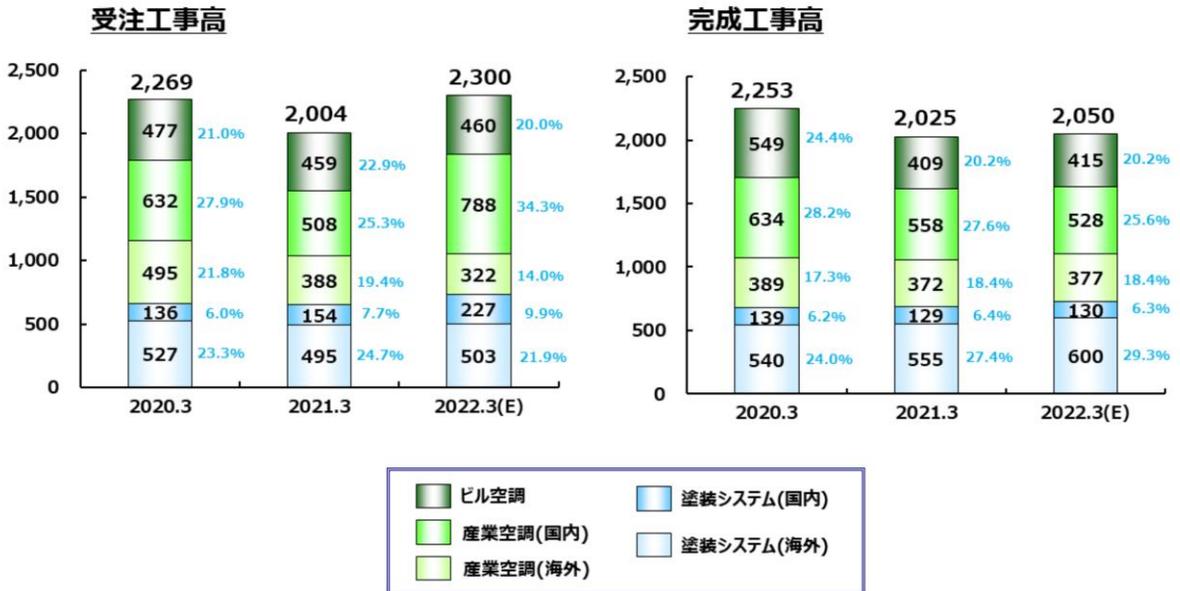
なお、想定為替レートにつきましては、スライド下部に記載しております。

また、為替差による影響についても記載しておりますので、合わせてご確認ください。

5 2022年3月期業績予想

事業別予想値

単位：億円

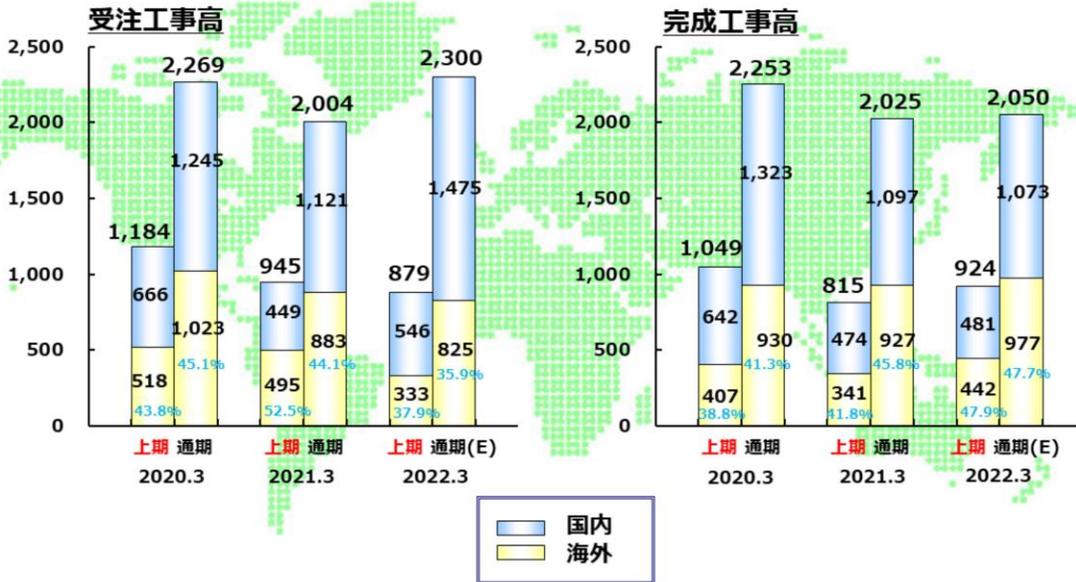


当頁からは、全社および各事業における受注工事高、完成工事高の業績予想をお示しておりますのでご参照いただければと思います。

5 2022年3月期業績予想

全社（国内／海外別）

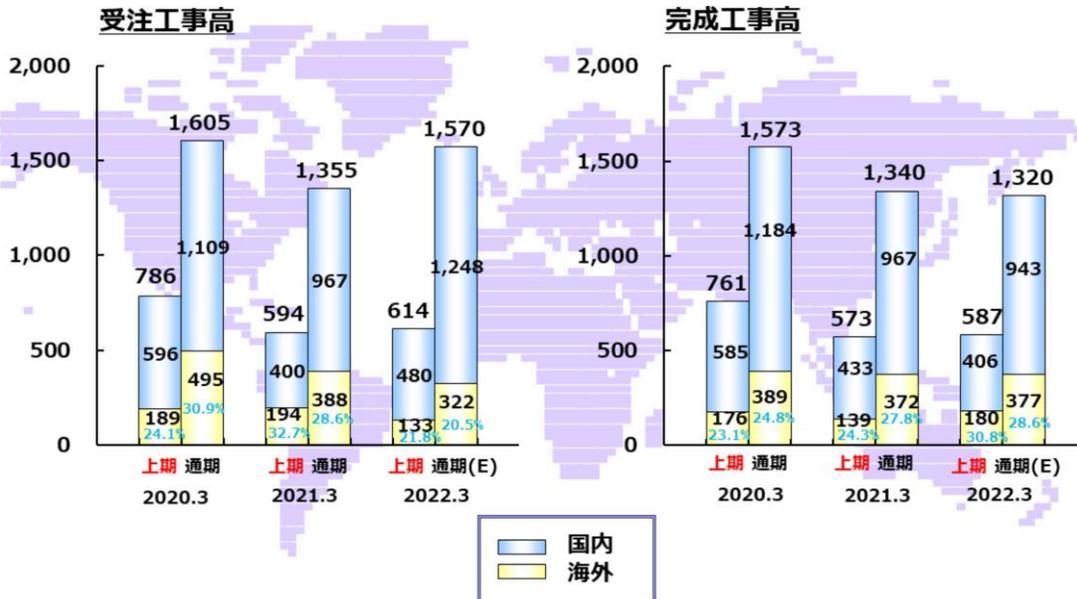
(単位:億円)  
(%:海外比率)



5 2022年3月期業績予想

環境システム事業（国内／海外別）

(単位:億円)  
(%: 海外比率)

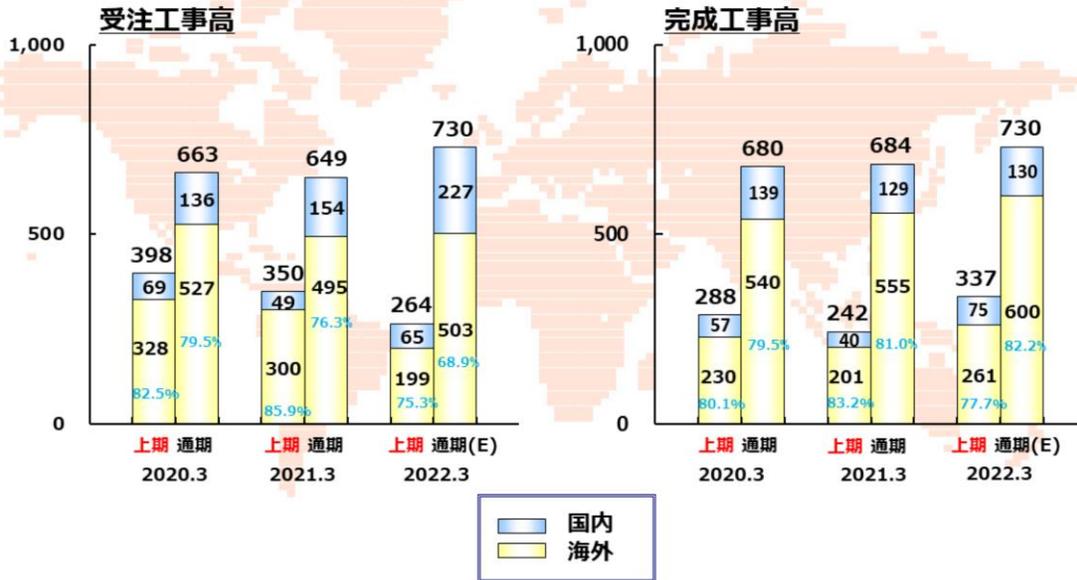


5

2022年3月期業績予想

塗装システム事業（国内／海外別）

(単位:億円)  
(%:海外比率)



## 2. 中期経営計画（2019年度～21年度）の 各戦略における取り組み

**経営企画本部長の中川です。**

**ここからは、中期経営計画の各戦略における主要な取り組みをご説明いたします。**

## 長期ビジョン／数値目標／投資テーマ

**「特色あるエンジニアリングを通じ、  
最適な環境を創造するグローバルな企業グループを目指す」**

### 技術

エネルギー・空気・水に関わる技術で、  
お客様の多様なニーズを満たすエンジニアリング集団を目指す。

### 環境

先進的なソリューション技術でお客様の環境課題を解決し、  
豊かな地球環境を未来へ引き継ぐことに貢献する。

### 人材

個人の創造性・多様性を尊重し、社員が自己の成長と働く喜びを感じることができる  
風土を大切にする。

### 2022年3月期 数値目標

受注工事高	2,650 億円
完成工事高	2,600 億円
経常利益	160 億円
親会社株主に帰属する当期純利益	100 億円
自己資本利益率 (ROE)	8 %以上
投資計画	200 億円

### 投資テーマ

### 投資金額 (計画)

技術開発力・提案力の強化／新規事業への取り組み推進  
(研究開発施設の拡充など)

生産性の向上(ITの活用など)・人材開発

M&Aなど資本投資

200億円

当頁は、本中計の『長期ビジョン／数値目標／投資テーマ』について記載  
しております。

## 基本方針と方向性・戦略

基本方針	方向性	戦略
<b>グローバル市場における 確固たる地位の確立</b> 競争力・収益力を高め、国内外設備業界における確固たる地位の確立を目指す。	事業基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バランスの取れた事業ポートフォリオの構築～環境変化、景気変動への対応</li> <li>● 安定的な調達先、協力業者の確保</li> <li>● 健全な財務基盤の維持</li> </ul>
	競争力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 付加価値の向上～省エネ・省コスト・環境対応技術や自動化技術など</li> <li>● 研究所の拡充・活用～技術開発力の強化と、技術の見える化による提案力の強化</li> <li>● IoT・AIなどを活用～新たなソリューションの開発推進</li> <li>● PR力強化による企業認知度の向上</li> </ul>
	収益性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 成長市場への経営資源の重点配分</li> <li>● 生産性向上～現場作業の工法・業務プロセスの改善と水平展開、IT活用など</li> <li>● プロジェクト管理体制の強化</li> </ul>
<b>将来への取り組みの強化</b> 市場環境の変化を見据え、ビジネス機会とする仕組み・体制づくりを推進する。	事業領域の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存主要事業領域の深化</li> <li>● 新規事業の拡大～植物工場事業や自動車以外の大型自動塗装事業など</li> <li>● 未進出国への事業エリア拡大</li> <li>● 海外グループ企業とのアライアンス推進～海外顧客ニーズへの対応力強化</li> </ul>
	環境対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 顧客の環境課題の解決力強化～空調事業で培った技術力を活かした、温室効果ガスや環境負荷物質の削減など</li> <li>● 事業を通じて SDGs、ESG などの社会的ニーズに対応～新たなビジネス機会として追求</li> </ul>
<b>魅力ある会社づくりと 強固な経営基盤の構築</b> 会社の魅力を高める人材戦略と、社会的信用を高めるコーポレート・ガバナンス体制の強化を進める。	人材戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人材の確保～柔軟な働き方を可能にする制度の拡充や処遇の向上、勤務時間の低減など会社の魅力を高める施策</li> <li>● キャリアプラン制度の浸透～社員の能力伸長とやる気の向上</li> <li>● 多様な人材の活用による人的資源と組織力の増強</li> <li>● 各海外子会社の状況に合わせた社員の確保</li> </ul>
	ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コーポレート・ガバナンス体制の強化～取締役会の経営監督機能の向上、資本コストを意識した経営など</li> <li>● 国内外における内部統制体制の強化</li> <li>● グローバルなリスク管理体制の拡充～法務リスク、情報セキュリティ、コンプライアンスなど</li> </ul>

続いて『基本方針と方向性・戦略』について記載しております。

## 各戦略における取り組み ～今期の実績①～

戦略：新規事業の拡大～植物工場事業や自動車以外の大型自動塗装事業など

### 自社植物量産工場からリーフレタスを出荷

株式会社ベジ・ファクトリーが所有する量産実証工場（埼玉・杉戸町）において、完全人工光型の植物工場の運営ノウハウの改善を続けています。

産業空調分野で培った空調技術と塗装分野の自動化技術を融合した「自動搬送による完全無人生育システム」と、「独自の水耕栽培システム」により、高品質かつ生菌数の少ないロングライフ野菜の量産を実現。

9月1日より、フリルレタスとグリーンリーフの出荷を開始しました。



当頁からは中計の各戦略における取り組みのうち、今期の実績についてご案内いたします。

まず、『新規事業の拡大』における実績をご報告させていただきます。

産業空調分野で培った空調技術と塗装分野の自動化技術を融合した「自動搬送による完全無人生育システム」と、「独自の水耕栽培システム」により、高品質かつ生菌数の少ないロングライフ野菜の量産を実現しました。また、9月1日より、フリルレタスとグリーンリーフの出荷を開始しました。

今後も当社グループは、プラント建設から野菜の生産・販売まで手がける総合アグリ事業者として、新たなブランド構築を目指してまいります。

## 各戦略における取り組み ～今期の実績②～

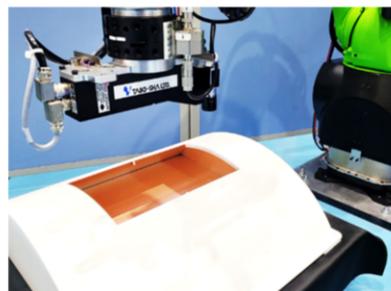
戦略：付加価値の向上～省エネ・省コスト・環境対応技術や自動化技術など

### 産業用ロボットへのプログラミングを自動で行うシステム「i-ART」を開発

当社が長年携わってきた自動車製造工場の塗装・研磨工程では、労務コストの削減や品質安定化の観点から、産業用ロボットを使った作業の自動化が一般化しています。しかしながら、自動車以外の製造現場においては、ロボットにプログラミングを施すこと（ティーチング）のできる専門技術者を配置することが難しい、作業数が多岐にわたりティーチングに膨大な時間を要する等の理由から、自動化を断念される場合があるのが現状です。

こうした中、当社はこれまで培った塗装ロボットのティーチング技術・ノウハウを生かし、自動かつ短時間で、誰でも簡単に作業を行うことのできる支援ツール「i-ART」を開発しました。

「i-ART」は、被処理物の位置や形状を3Dスキャンすることで、塗装・研磨工程に必要なロボットの動きをアルゴリズム化し、生産ラインを止めることなく作業することが可能です。これにより専門技術者の労働負荷の低減や、有機溶剤等、人体に悪影響となる環境下での作業を自動化することができます。



**2つ目は、中計の戦略『付加価値の向上』における実績としまして、産業用ロボットへのプログラミングを自動で行うシステムの開発をご紹介します。**

**自動車製造工場の塗装・研磨工程では、ロボットによる作業の自動化が一般的です。しかしながら他の製造現場では、プログラミングの技術者の確保や時間の制約等により、自動化を断念せざるを得ないケースがあります。**

**当社はこうした課題に対し、自動車塗装で培った技術やノウハウを生かして、自動かつ短時間で誰でも簡単にプログラミング作業のできる支援ツール「i-ART」を開発しました。**

**本システムにより、専門技術者の労働負荷の低減や、有機溶剤等、人体に悪影響となる環境下での作業を自動化することが可能となりました。**

## 各戦略における取り組み ～今期の実績③～

戦略	今期の実績
<b>コーポレートガバナンス体制の強化</b> ～取締役会の経営監督機能の向上、資本コストを意識した経営など	<b>取締役会のさらなる充実</b>
	本年6月、取締役会の構成を見直し、取締役9名のうち4名が社外取締役となった。取締役会全体としての知識・経験・能力のバランス、多様性や専門性確保の観点から、新たに社外取締役が2名加わり、取締役会機能のさらなる充実を図った。
	<b>委員会機能の整備</b>
	①取締役会の独立性・客観性と説明責任の強化を目的に設置している指名諮問委員会・報酬諮問委員会について、サクセッションプランの導入等さらなる機能強化を実施した。 ②グループ全体のガバナンス体制の向上を目的に、取締役会の諮問機関として新たにガバナンス委員会を設置した。 ③上記①②は、いずれも社外取締役が委員長を務める。

**実績の3つ目は、『コーポレートガバナンス体制の強化』の戦略に基づいて実施した、取締役会のさらなる充実と委員会機能の整備です。**

**今期より新たに社外取締役2名を迎え、指名諮問委員会・報酬諮問委員会の機能を強化するとともに、新規でガバナンス委員会を設置しました。**

**これらの委員会については、いずれも社外取締役が委員長を務めております。**

## 各戦略における取り組み ～今期の実績④～

戦略	今期の実績
<p><b>人材の確保</b> ～柔軟な働き方を可能にする制度の拡充や処遇の向上、勤務時間の低減など会社の魅力を高める施策</p>	<p><b>健康経営のより一層の推進</b></p> <p>昨年度に取得した「健康経営優良法人2021(ホワイト500)」の認定をより一層深化させるため、4つの重点施策(①生活習慣の改善、②メンタルヘルス向上、③長時間労働対策、④ワークライフバランス支援)を掲げ、産業医、保健師の増員、国内各地に配置した衛生委員会を通じた社員とその家族の健康課題へのより積極的な取り組み、健康セミナーのオンライン開催、ウェアラブル端末の活用促進、生活習慣病へのリテラシー向上などを推進している。</p>
	<p><b>会社の魅力を高めるための新・福利厚生制度（カフェテリアプラン・パッケージプラン）の導入</b></p> <p>旧来の制度を刷新し、現在の社員の価値観やライフスタイルに合わせ、多様なニーズに応えることができ、より多くの社員がいつでも利用可能な福利厚生制度として、カフェテリアプラン・パッケージプランを導入した。</p>

続きまして、実績の4つ目は『人材の確保』の戦略に基づく取り組みである、健康経営のより一層の推進と、新・福利厚生制度についてです。

昨年度取得した「健康経営優良法人2021」（ホワイト500）の認定をより深化させるべく、当社では4つの重点施策を実施しました。

また、会社の魅力をより高めることができるよう、新たにカフェテリアプラン・パッケージプランの福利厚生制度を導入しました。

今後も、柔軟な働き方を可能にする制度の拡充や処遇の向上、勤務時間の低減など会社の魅力を高める施策を推進してまいります。

## 各戦略における取り組み ～進行中の主な取り組み①～

戦略	進行中の主な取り組み
<b>付加価値の向上</b> ～省エネ・省コスト・ 環境対応技術や自動化技術など	<b>高塗着効率塗装システムの開発・商品化</b> CO <sub>2</sub> 削減につながる、高塗着効率塗装システムの開発・商品化を推進中。
<b>研究所の拡充・活用</b> ～技術開発力の強化と技術の見える化による提案力の強化	<b>技術開発センター（愛川）の実証センター化</b> 環境システム事業関連技術の顧客への提案を行う見学施設として再構築を検討中。
<b>IoT・AIなどを活用</b> ～新たなソリューションの開発推進	<b>予兆保全と品質解析システムの開発・事業化</b> IoT・AI を活用して稼働停止や品質不良発生時の要因解析を行うシステム「i-Navistar」の導入拡大に向け営業活動推進中。

**当頁からは、各戦略における進行中の主な取り組みについて記載しておりますのでご参照ください。**

## 各戦略における取り組み ～進行中の主な取り組み②～

戦略	進行中の主な取り組み
生産性向上	<b>各種業務の効率化・自動化</b> 図面の自動作画や原価管理のシステムの開発、3D図面およびBIM化の促進、積算・プロジェクト管理等の自動化。
	<b>経費精算システムの導入</b> 経費精算システムの導入を検討中。システム導入によりペーパーレス化および業務プロセスの効率化を実現。
<b>新規事業の拡大</b> ～植物工場事業や自動車以外の大型自動塗装事業など	<b>航空機・鉄道車両、一般産業向け自動研磨装置及び100%塗着効率塗装ガンの開発・事業化</b> 受注拡大に向け営業活動推進中。
<b>未進出国への事業エリア拡大</b>	<b>未進出国への拠点設立の検討</b> 今後の投資が期待できる地域への新規拠点設立を検討中。

## 各戦略における取り組み ～進行中の主な取り組み③～

戦略	進行中の主な取り組み
<b>多様な人材の活用による 人的資源と組織力の増強</b>	<b>多様な人材の採用と活用</b>
	<p>IT知識や海外経験など多様なバックグラウンドを持つ新卒人材の採用を、性別や国籍を問わず質・数ともに高い水準にて継続する。あわせて、多様な事業ニーズに応えるため、多彩な即戦力人材を中途採用市場から積極的に獲得し活用する。</p> <p>女性活躍に向けた一連の施策は完了したが、今後さらに一段と踏み込んだ女性活躍を推進するため、処遇・福利制度の充実を図るとともに、出産・育児期のキャリア形成の停滞を低減するための施策を検討し順次実施していく。</p>
	<b>当社の社会的価値向上のための人材能力の向上</b>
<p>若手社員の早期育成を図るとともに、上位職者の経営能力の向上と高付加価値事業・市場領域開拓に資する高度専門人材の育成と活用に向けた諸施策を導入し推進する。</p>	

## 各戦略における取り組み ～進行中の主な取り組み④～

戦略	進行中の主な取り組み
<b>コーポレート・ガバナンス体制の強化</b> ～取締役会の経営監督機能の向上、資本コストを意識した経営など	<b>資本コストや資本・配当政策に関する検討の深化</b> 企業価値向上を目指し、資本コストを意識した経営や資本・配当政策に関する検討を推進中。
<b>国内外における内部統制体制の強化</b>	<b>内部統制体制の強化</b> グループ全体のITを健全に維持・監督する内部統制体制の強化に向けた対応を検討中。
<b>グローバルなリスク管理体制の拡充</b> ～法務リスク、情報セキュリティ、コンプライアンスなど	<b>グローバルな情報セキュリティ対策の強化</b> 関係会社における情報セキュリティ対策の強化を検討中。

**今後も、半期毎の決算説明資料におきまして、進捗のご報告をさせていただきます。**

### 3. 株主還元

**最後に、当社の株主還元についてご説明いたします。**

**1 株主還元**
自己株式の取得・消却

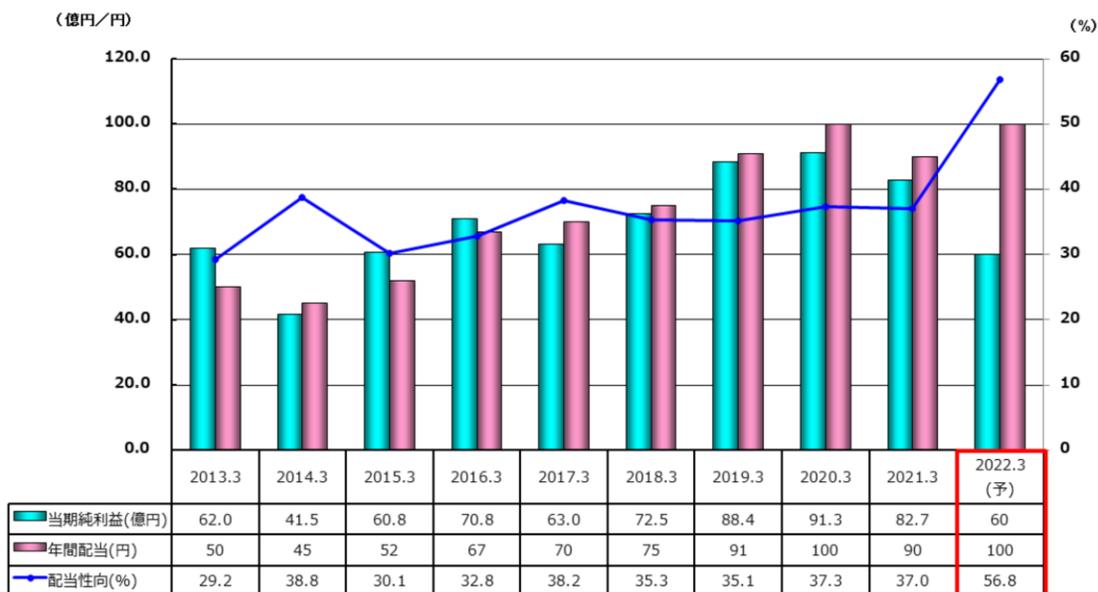
取得実績				消却実績			
実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)	実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)
2005年12月	40	1,933	77	2008年 8月	1,200	1,593	1,912
2006年 2月	597	1,780	1,062	2018年 2月	1,700	2,443	4,154
2006年7,8月	500	1,401	700				
2011年 8月	300	1,576	472	<u>処分実績</u> (ESOP・業績連動型株式報酬制度にて)			
2012年11月	600	1,614	968				
2013年12月	800	2,170	1,736	実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)
2015年 5月	680	3,245	2,206	2013年 2月	180	1,860	334
2016年11月	356	2,805	999	2019年 8月	136	3,299	449
2017年11,12月	136	3,654	499				

当頁では、自社株式の取得・消却についてご案内いたします。

基本方針としましては、資本効率の向上と機動的な財務政策の実現を目的として、自社株取得・消却を弾力的に実施していきます。

加えて、安定的かつ持続的な成長を実現するために、新たな成長につながる投資へ向けることも重要と考えています。

自己株式の取得については、今後も利益見通しに基づき、成長投資のための資金ニーズおよび配当金額等の状況を考慮したうえで総合的に判断し、弾力的に実施していきたいと考えております。

**1**
**株主還元**
**当期純利益と配当の推移**


連結配当性向40%を目標とし、安定的な配当を実施していくことを基本方針とする。  
2022年3月期の1株当たり年間配当予想金額は100円。(配当性向56.8%)

当頁においては、配当についてご説明いたします。

2022年3月期につきましては、利益配当金による株主の皆様への利益還元の強化を図るため、連結配当性向を5%引き上げ、連結配当性向40%を目標とし、安定的な配当を実施していくことを基本方針としております。

今回、業績予想を修正しましたが、今期の年間配当は、期初公表の配当予想金額から変更せず、1株につき100円を実施する予定です。

これにより配当性向につきましては、約56.8%となる見通しです。

本日のご説明は以上となります。ご清聴いただき、ありがとうございました。

## 将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関するお問合せ先

株式会社大気社 経営企画本部 経営企画部 広報課

TEL : 03-5338-5052 FAX : 03-5338-5195